

【2020 年度/専門科目領域/専門科目群/理学療法学科/旧カリキュラム】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
マニュアルセラピー		選択	2	3	後期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
関口 賢人	D316	y-sekiguchi	月曜日 16:00~17:00		
授業の目的・概要	理学療法における運動療法の介入手技として、関節、筋機能に対する徒手理学療法技術を理解し、その基本的な技術について説明できるようになる。 徒手理学療法（マニュアルセラピー）について、歴史、治療技術についての基礎的事項を学習する。各徒手療法学派の特徴や臨床現場における適切な実施方法について実技も含めて学習する。				
学習上の助言	実技が多いため、ふさわしい服装で臨むことが望ましい。				
教科書	運動機能障害症候群のマネジメント 著：Shirley A.Sahrmann 出版社：医歯薬出版株式会社				
参考書	PNF マニュアル 改訂第3版 編：柳澤 健、乾 公美 出版社：南江堂				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	関節への徒手療法の基本原理がわかる。			HSU(3)、PT(1)、OT(4)	
②	筋・筋膜への徒手療法の基本原理がわかる。			HSU(3)、PT(1)、OT(4)	
③					
④					
⑤					
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	事前事後学習内容・必要時間 (時間)		
1	徒手理学療法の概念について学習する。	講義、実技	徒手理学療法の概念についてまとめる。	4	
2	徒手理学療法における主観的評価法について学習する。	講義、実技	主観的評価法について復習する。	4	
3	徒手理学療法における客観的評価法について学習する。	講義、実技	客観的評価法、クリニカルリーズニングについてまとめる。	4	
4	筋膜に対する徒手理学療法を実践する。	講義、実技	筋膜の解剖についてまとめる。	4	
5	筋に対する徒手理学療法を実践する。	講義、実技	筋の解剖についてまとめる。	4	
6	関節に対する徒手理学療法を実践する。	講義、実技	関節の解剖についてまとめる。	4	
7	神経に対する徒手理学療法を実践する。	講義、実技	神経の解剖についてまとめる。	4	
8	PNF (proprioceptive neuromuscular facilitation ; 固有受容性神経筋促通法) の概念について学習する。	講義、実技	PNF の概念についてまとめる。	4	
9	PNF (proprioceptive neuromuscular facilitation ; 固有受容性神経筋促通法) PNFパターン (上肢：屈曲) について学習する。	講義、実技	PNF パターン (上肢：屈曲) についてまとめる。	4	
10	PNF (proprioceptive neuromuscular facilitation ; 固有受容性神経筋促通法) PNFパターン (上肢：伸展) について学習する。	講義、実技	PNF パターン (上肢：伸展) についてまとめる。	4	
11	PNF (proprioceptive neuromuscular facilitation ; 固有受容性神経筋促通法) PNFパターン (下肢：屈曲) について学習する。	講義、実技	PNF パターン (下肢：屈曲) についてまとめる。	4	
12	PNF (proprioceptive neuromuscular facilitation ; 固有受容性神経筋促通法) PNFパターン (下肢：伸展) について学習する。	講義、実技	PNF パターン (下肢：伸展) についてまとめる。	4	
13	脊椎疾患に対する徒手理学療法の実践について学習する。	同時双方向型授業	脊椎疾患の病態についてまとめる。	4	
14	肩関節疾患に対する徒手理学療法の実践について学習する。	同時双方向型授業	肩関節疾患の病態についてまとめる。	4	
15	股関節疾患に対する徒手理学療法の実践について学習する。	同時双方向型授業	股関節疾患の病態についてまとめる。	4	
試					

【2020 年度/専門科目領域/専門科目群/理学療法学科/旧カリキュラム】

総合評価割合 (%)		達成度評価					合計
		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	
		100	0	0	0	0	100
総合 力 指 標	知識・技術力	50	0	0	0	0	50
	思考・推論・創造する力	30	0	0	0	0	30
	協調性・リーダーシップ	20	0	0	0	0	20
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	0	0
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	0	0
評価のポイント							フィードバックの方法
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①	✓	筆記試験 70%、実技試験 30%で判断する。筆記試験は、教科書ならびに授業中のスライド、配布するプリントの範囲から出題する。実技試験はグループで模擬症例を対象にし、実技内容の習熟度を評価する。				必要に応じて解答を提示し、解説を行う。
	②	✓					
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
レポート	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
備 考							
<p>教員の実務経験：運動器系理学療法（徒手理学療法）を中心に、理学療法士として病院、整形外科診療所、スポーツ現場での実務経験あり。</p> <p>実践的授業の内容：主に運動器疾患に対する臨床場面を想定し、痛みや可動域制限の原因組織に合わせた徒手理学療法を実践できるように指導する。</p> <p>Teams を使った同時双方向型授業を行います。授業時は通信容量が無制限の Wifi 環境を推奨します。遠隔授業では、課題のダウンロードや動画視聴などがありますので、通信量に十分に注意してください。</p> <p>大学が公表している感染対策および教員が示す授業方法を遵守すること。問題がある場合は面接授業の参加を認めない。今後の感染症の状況など、社会情勢に応じて再度シラバスの変更が生じる可能性がある。</p>							